

2010年12月3日

敦賀市長  
河瀬 一治 様

‘10もんじゅを廃炉へ！全国集会実行委員会  
原子力発電に反対する福井県民会議  
原水爆禁止日本国民会議・原子力資料情報室  
ストップ・ザ・もんじゅ・反原発運動全国連絡会  
全国集会賛同団体・賛同人

## 申 し 入 れ 書

14年5ヶ月という世界に例がない原発の長期停止を振り切って再開した「もんじゅ」は、多くの国民が予想したとおり、再開した5月6日深夜から設備機器の警報発報が続発し、安全性総点検がいまだ半ばであることを露呈しました。

原子力研究開発機構が確認した警報は、誤警報を含め第1段階の炉心確認試験中に900回を超えると公表されています。

重要な機器であるナトリウム検知器の点検漏れが、たまたまの誤警報で明らかになったり、野外排気ダクトの腐食による穴あきが放置されてきたなど、原子力機構のもんじゅ設備に対する管理能力のお粗末さは、再開前から一番不安な点でした。

また、地元自治体に対する事故、トラブルの迅速な通報連絡は、情報の透明性、信用性の上で極めて重要な位置にあることは、95年事故の教訓から重ね重ね確認されてきました。

にもかかわらず、通報連絡の大幅な遅れは、再開前も再開直後も繰り返されました。

8月に起きた炉内中継装置の原子炉内落下事故も、これらの延長線上で起きた想定外事故です。原子炉の中で、3,3トンもの重量物が落下するなど想像もできませんでした。

重要性の認識が薄い設備の単純な設計ミスと点検漏れ、自治体への通報連絡の遅れが、ここでも繰り返されています。

炉内中継装置の撤去自体が相当の難工事であると想像しますが、仮に撤去できたとしても、同じ過ちを繰り返す原子力機構の組織体質は、一朝一夕で変わることはないと思います。

このような組織体質の原子力機構が40%出力運転に入ることは、新たな大事故を呼び起こすおそれがあり、あまりにも危険すぎます。

敦賀市民の命を預かる自治体として「もんじゅ」の運転を認めないよう強く要請します。  
以上